

保育界

2014
4



発行 日本保育協会

野草を生やし地域の自然が大好きになる園庭に —アム・ジョーダン幼稚園（ドイツ）—

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切する心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが大切になります。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『低年齢期の子どもたちの自然離れを見過ごすことはできない』
『地域の自然が大好きな子どもを育てたい』

この園では、上記の思いから、自然景観設計士（日本でいうビオトープ管理士）と相談して、北ドイツの美しい野草が生える園庭づくりを考えました。

計画当初は、芝生や園芸植物ではなく、自然の野草を生やすことに保護者などの理解が得られるか、とても不安だったとのこと。保護者に賛同してもらえるよう、自然景観設計士と一緒に野草を生やす保育上のメリットを説明したり、野草だけの花壇をつくってその美しさをアピールしたり…と、情報発信に工夫を凝らしました。

そうした結果、園児も保護者も、美しい野草が生え四季折々変化する園庭が、今や大のお気に入りです。この園がモデルとなり、近隣の小学校でも野草による美しい草原づくりが始まりました。

■日本保育協会ほか後援『自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー2014』

上記のような保育現場を訪問するツアーを7月14日（月）～20日（日）に催します。
詳しくは、（公財）日本生態系協会（TEL 03-5951-0244）までお問い合わせください。